

# 夫婦円満の秘訣とは？ニューヨーカーに聞く「夫婦の愛」

By 安部かすみ - 2015-03-13



「夫婦の愛」。これは既婚者にとっても、未婚者にとっても、永遠のテーマだろう。今回はニューヨーカーに話を聞きながら、夫婦の愛を持続するための秘訣について探ってみることにする。

まず婚姻関係の利点について、最近結婚したばかりの2人に聞いてみた。「今まで独身だったのは、ずっとライトマン（自分にとって間違いない男性）を待っていたからよ」と言うのは、昨年結婚したサンディー・ダンさん（57歳・国連勤務）。「結婚して良かったことは、仕事が終わっても家に愛する人がいるってことね」とサンディーさん。2年前に結婚したロビン・レイヤズさん（36歳・教師）も、「自分が愛する男性を『夫』と呼び、家族ができたことが嬉しい」と語る。

結婚とは幸せのかたち？それとも辛いもの？

この2人に限らず、まわりのうまくいっている既婚カップルを見ていて共通するのは主に、

(1) 夫婦は一心同体 (2) 協力し合う (3) 互いに独立精神がある——ということだ。

(1) に関しては、パーティーやちょっとしたお呼ばれも夫婦同伴が基本だし、就業後は家族の時間。残業は極力せず、同僚と飲みにも行かず、家族と一緒に過ごすのが当たり前。寝室が同じなのは言わずもがな。(2) については、例えば家事。妻が料理をすれば夫が皿洗いを「自発的」に行う、などだ。(3) の独立精神については、特に妻側に言えることだが、そもそも「旦那に幸せにしてもらう」とか「養ってもらう」という概念がない。結婚後も仕事を続け、出産してもベビーシッターを雇って数ヶ月後には職場復帰なんてこともざらだ。2歳の長女がいるロビンさんも、出産して9週間後には職場復帰している。

ではアメリカ人は皆、夫婦円満かと言えば、残念ながら必ずしもそうではない。アメリカン・サイコロジカル・アソシエーションの発表では、アメリカ人カップルの40～50%が離婚しているという現実がある。これについて主な原因は何なのか、先述の2人に聞いてみると、「両親が離婚し、身近に良いロールモデルがないからでは」と、サンディーさんは分析。「近年、多くの女性がキャリアを持ち、収入面で頼らずに生活できるようになったからでは」と言うのはロビンさん。これらは日本にも共通点があるが、アメリカ人はイエス／ノーがはっきりしている分、愛があるうちはお互いを思い合い協力し合うが、愛がなくなれば、子供がいようとも世間体など気にせず、あっさり離婚となっているのかも。

夫婦円満を保つために、「ほんの小さなことでも夫婦で笑い合うようにしている」とサンディーさん。ロビンさんは「お互いに尊敬し、褒め合い、感謝し、必要であれば素直に謝るようになっている。コミュニケーションは最も大切。何かあれば、自分の気持ちを声を荒げずにクリアに伝えるようにしているわ。喧嘩は時にやり方さえ間違えなければいいと思う。妥協も時には必要だということを忘れないようにしている」と言う。

お互いに依存せず、コミュニケーションを大切にすることが大切  
Photo By  
lyubenov.com (CC BY-SA 3.0)

アメリカ人と結婚して9年になるヒロミさん（仮名・33歳・会社員）は、そもそも「結婚とは辛いもの」と覚悟した上で結婚したので、日常の些細なことでもうれしく思えるのだとか。さらに夫婦円満の秘訣として、「うちは夫の提案で、毎週水曜日をワインナイトにしているんです。子供を早めに寝かせ、夫婦だけの時間を作って、ワインを飲みながら語ったり映画を観たりしています」と説明。夫のトムさん（仮名・35歳・教師）は、「些細なことでも、妻が笑顔になれるようなことをやってあげるんだ。でも何より大切なのは、早く寝ないでセックスを楽しむこと。それが特に重要だと思うよ」と付け加えた。

結局のところ、お互いに頼ることなく一心同体で協力し合い、コミュニケーションを大切にし、そしてセックスも大いに楽しむということが、夫婦の愛を持続させる究極の秘訣なのかもしれない。

### 安部かすみ

編集者、ライター。1994年から2001年まで、日本の出版社で編集者として勤務、02年よりニューヨーク在住。07年から14年まで、在NYの出版社でシニアエディターとして勤務。退職後は様々な日本語メディアでNY情報を発信中。日米での編集者歴21年。

---